土器

縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の土器が出土した。最古の土器は縄文時代早期の深鉢だった。人々が日常生活（食物の煮炊き、食器、貯蔵など）で使ったものが多い。奈良時代以降の土器には甲斐・相模・武蔵国や東海地方などからもたらされたものが多く、国境地域の特色が見られる。

狐原遺跡で出土した土器

その他の遺物

縄文時代の土偶や石器（石鏃、打製石斧、石皿など）、古墳時代以降の石製品（砥石、紡錘車など）、金属製品（銅製の飾り金具、鉄製刀子・鉄鏃・釘・焼印など）、製鉄時に出る鉄滓、桃などの炭化種実や獣の焼骨

鉄製焼印「山」（平安時代）
馬や木製品など当地のブランド品に押したと見られる。全長 20㎝

石製のコマ（奈良時代）
棒の先端に付けて回転させながら、繊維を撚り合せて糸を紡いだ。紡錘車

銅製の飾り金具（古墳時代）
飾り馬具の一つと見られ、武人的首長の存在をうかがわせる。

鉄の矢じりとナイフ（古墳～奈良時代）
武器や狩猟などに用いた。矢じりは鉄鏃、ナイフは刀子と呼ぶ。単１形電池と比較

遺跡で土木工事を行う場合は文化財保護法による届出が必要です。詳しくは右記の窓口へお問い合わせください。

平成２７年３月２４日
編集・発行　上野原市教育委員会
〒 409-0192　山梨県上野原市上野原 3832
電話 0554-62-3409　FAX0554-63-4772

上野原市埋蔵文化財調査報告書第７集　概要版リーフレット

狐原遺跡の発掘調査

山梨県最東端の集落遺跡

発掘調査時の写真

■狐原遺跡

場所　山梨県上野原市新田。桂川（相模川）に面した河岸段丘上にあり、東の対岸は神奈川県となる県境地域です。北側は旧甲州街道です。

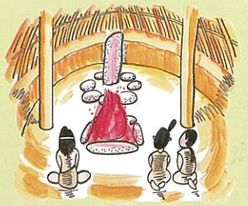
経緯　昭和 48 年（1973）に畑で土器や石器が採集され、約 50,000㎡の範囲が遺跡と判明しました。平成６年（1994）から４年間、上野原町教育委員会が道路等の工事範囲（約 7,000㎡）を発掘調査し、多くの地元参加者のご努力で数々の貴重な成果が得られました。

結果　縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代の集落跡が発見され、とくに古墳時代後期以降は集落規模が大きく東西交通の要衝として栄えた様子がうかがえます。出土品の数は収蔵庫が満杯になるほどでした。発掘調査した場所は道路等に変わりましたが、周辺の地下には今なお多数の遺構や遺物が埋没しています。上野原市の原始・古代史を知る大切な遺跡です。

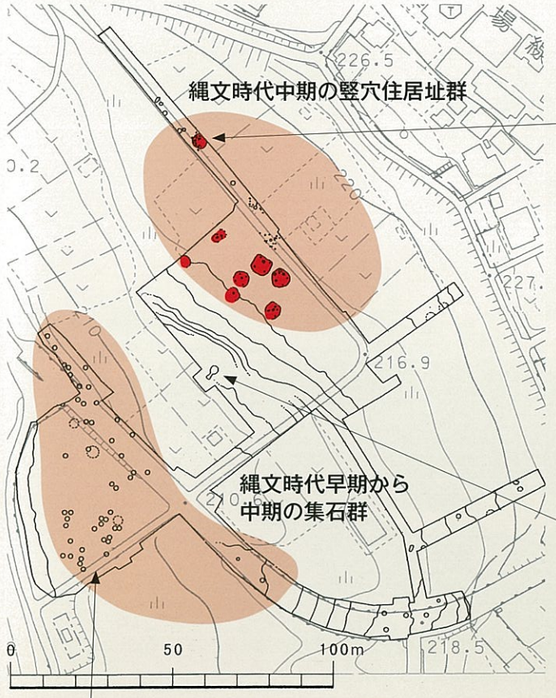
遺跡の場所
国土地理院 2.5 万分の 1 地形図より

縄文時代

二段に分かれた段丘面のうち、上段で縄文時代中期後半の竪穴住居址８軒がまとまって発見された。多くの住居に石囲い炉と埋甕があり、６号住居では河原石による祭壇状施設が残されていた（右図）。一段低い段丘には中期末の敷石住居址１軒や、早期から中期に築かれた多数の集石が広範囲に分布していた。この他、獲物を捕らえる落とし穴や屋外で火を焚いた跡などが発見され、早期から後期の土器や石器も数多く出土した。



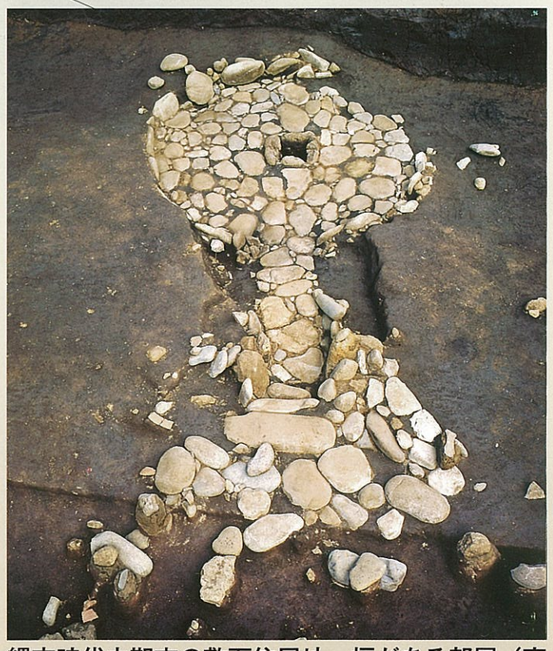
６号住居の復元想像図



発掘調査区の全体図

竪穴住居址（17 号住）。一部は調査区外にかかる。石囲い炉（長軸 95㎝）や柱穴、埋甕（矢印部分）が残されていた。

多数の焼けた石からなる集石遺構。食物を蒸し焼きにする調理施設であった可能性がある。



縄文時代中期末の敷石住居址。炉がある部屋（直径約３m）から細長い通路を経て、門柱状の立石と階段を備えた出入口に至る構造となっていた。

古墳時代から奈良・平安時代

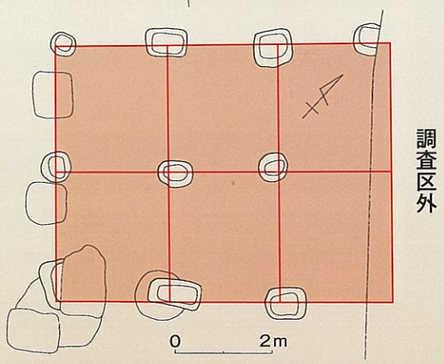
竪穴住居址 24 軒、掘立柱建物址 10 棟、土坑 149 基などが広範囲で発見された。建物の多くは揃って北東方向を向くため集団の強い規制が推測されるが、平安時代になると向きはバラバラになる。土器は素焼きのものや登り窯で焼いた須恵器が多く、「大」と墨書した土器や硯に転用した破片もあった。

釉薬（灰釉や緑釉）が掛けられた平安時代の高級な器や、石製品、鉄・銅製品など多種多様な遺物が出土した。

高床倉庫の復元想像図

発掘調査区の全体図

航空写真。道路予定地で多数の竪穴住居址を発掘。



掘立柱建物址の平面図（１号掘立）。一部は調査区外にかかるが、12 本の柱からなる高床式倉庫（5.3 m× 6.5 m）と考えられる（右上に想像図）。柱穴は最深 78㎝であった。

大型竪穴住居址（25 号住）。竪穴の１辺が７mあり、遺跡内で最大の建物となる。人の立つ場所が柱穴で、床は踏み固められていた（写真上）。カマド火床から炭化した種実や猿の焼骨が見つかった。